

平成 28 年度 第 3 回 福山大学教育改革シンポジウム

大学教育センター教育開発部門

平成 28 年 9 月 15 日（木）、第 3 回福山大学教育改革シンポジウムを 1 号館大講義室（01101 教室）で実施しました。本年度の教育改革シンポジウムは「高大接続を考える—高大接続システムの改革と具体的方策—」をテーマに、2 部形式で開催しました。[本学の教職員ならびに福山平成大学、尾道市立大学、広島県立府中高等学校、広島県立福山工業高等学校の教員の方を含めて 143 名が参加しました。](#)

第 1 部の FD・SD 講演会は、東北大学高度教養教育・学生支援機構高等教育開発部門入試開発室 教授 倉元 直樹先生から「地域と大学 — 人口減少時代の高大接続・高大連携を考える —」という演題でご講演をいただきました。

倉元先生のご講演では、自己紹介の後、「高大接続」と「高大連携」の定義から話が始まりました。人口減少が進んでいく我が国では、大都会にある大学と、地方の大学では存在意義が異なることなどが事例に基づいて示されました。

続いて、①東北大学の地元とは、②地域特性から見た東北大学、③東北大学型高大接続、④東北大学型高大連携、⑤広報活動への評価、⑥オープンキャンパスと AO 入試、⑦省エネ型高大連携に関する内容が、東北大学の AO 入試やオープンキャンパスのデータに基づき説明されました。さらに、東北大学志願者状況の厳しい現実や、その厳しい現実を踏まえた上での地域と大学のあり方の近未来像について講演が行われました。

倉元先生のご講演は、東北大学の事例を中心に展開されましたが、基本は普遍的な内容に基づいたものであり、本学の今後の高大接続システムの改善に十分に資するものでした。倉元先生が述べられた、「地域においては、大学、高校が存在すること自体に意味がある。」、「学生獲得は、狩猟ではなく（高等学校と連携した）収穫である。」という言葉は印象的でした。



第2部では、「高大接続に関する取り組み」をテーマとして、本学入試委員会副委員長の倉掛昌裕教授、広島県教育委員会学校経営支援課総括指導主事、前広島県立福山誠之館高等学校校長の山口哲治先生、広島県立戸手高等学校校長の藤田知久先生、そして、教育ネットワーク中国代表理事、エリザベト音楽大学理事長・学長の川野祐二先生の4名の先生方にご講演をいただきました。

倉掛先生のご講演では、本学の入学者の現状や高等学校基礎学力テスト、大学入学希望者学力評価テストなどの高大接続システム改革会議の内容が紹介され、今後の高大接続に関する本学の課題が示されました。



広島県教育委員会学校経営支援課総括指導主事、前広島県立福山誠之館高等学校校長の山口哲治先生のご講演では、広島県教育委員会としての観点から、広島県における主体的学習を指向した「学びの変革への取り組み」や、国の教育政策に基づいた広島県の高大接続システム改革の方向性とスケジュールなどが示されました。



広島県立戸手高等学校校長の藤田知久先生のご講演では、日々生徒と接している高等学校現場の視点から、学習性無力感やトラッキングを起こしている現状が示されました。さらに、この状況を抜け出すためには①多面的・総合的評価による選抜、②各大学のディプロマポリシー (DP)、カリキュラムポリシー (CP)、アドミッションポリシー (AP) の明確化が重要であるというお考えが述べられました。



教育ネットワーク中国代表理事、エリザベト音楽大学理事長・学長の川野祐二先生のご講演では、教育ネットワーク中国の事業内容をベースに、中国地方の大学を有機的にネットワーク化することで高大接続に貢献している活動の現状や今後の方針が示されました。



(記：田村 豊)